

医療支援部会における検討状況

検討項目及び開催実績

1 当部会における検討項目

認知症の人の、認知症と身体症状双方の症状に応じた医療支援体制について

2 開催実績

(第1回) 平成19年 8月1日(水) 17時～19時

(第2回) 平成19年10月4日(木) 17時～19時

具体的な検討状況

現状の把握

◆ 把握している医療資源等の現状及び現在都が実施している施策について概観

病床、在宅療養支援診療所、認知症サポート医、訪問看護ステーション等の医療圏ごとの分布状況

【参考資料3】

認知症地域医療支援事業（サポート医、かかりつけ医）、東京都老人性認知症専門医療事業について

◆ 様々な立場から寄せられた認知症の医療への不安と期待を把握

認知症の医療を受ける人・提供する人等、様々な立場で認知症の医療に携わる人から寄せられた意見を、認知症の疑いから終末期までのステージを追って把握

◆ 認知症の経過と医療依存度について検討

変性疾患による認知症を例に、MCI、軽度、中等度、高度、終末期の各段階を通じて、認知症・身体症状双方の経過とそれに伴う医療依存度の変化について検討

【参考資料4】

整理した事項

◆ 認知症の医療に関わる立場

認知症の医療に関わる立場として、次の5つに整理

本人・家族
ケアマネージャー等のコーディネーター
かかりつけ医
認知症の専門医・専門医療機関
主として身体疾患を対象とした一般病院

◆ 議論の進め方

今後、以下により議論を進めていくことを決定

- (1) 認知症の進行（MCI 終末期の5段階）に沿って、時系列に検討を進める。
- (2) 各段階で認知症・身体症状双方で必要とされる医療について整理する。
- (3) その医療を上記 ～ の誰がどの程度担うべきかについての役割分担を議論する。

現在の検討状況

◆ MCI～軽度の段階について検討を開始

以下の4点に課題を整理し、検討に着手

- (1) 一次的な相談体制や受診を促す方法は
- (2) より迅速に的確な診断を得るためには
- (3) 本人等の負担感の軽減と医療資源の有効活用双方を実現するためには
- (4) 認知症への影響も踏まえた、身体症状への対応についての検討